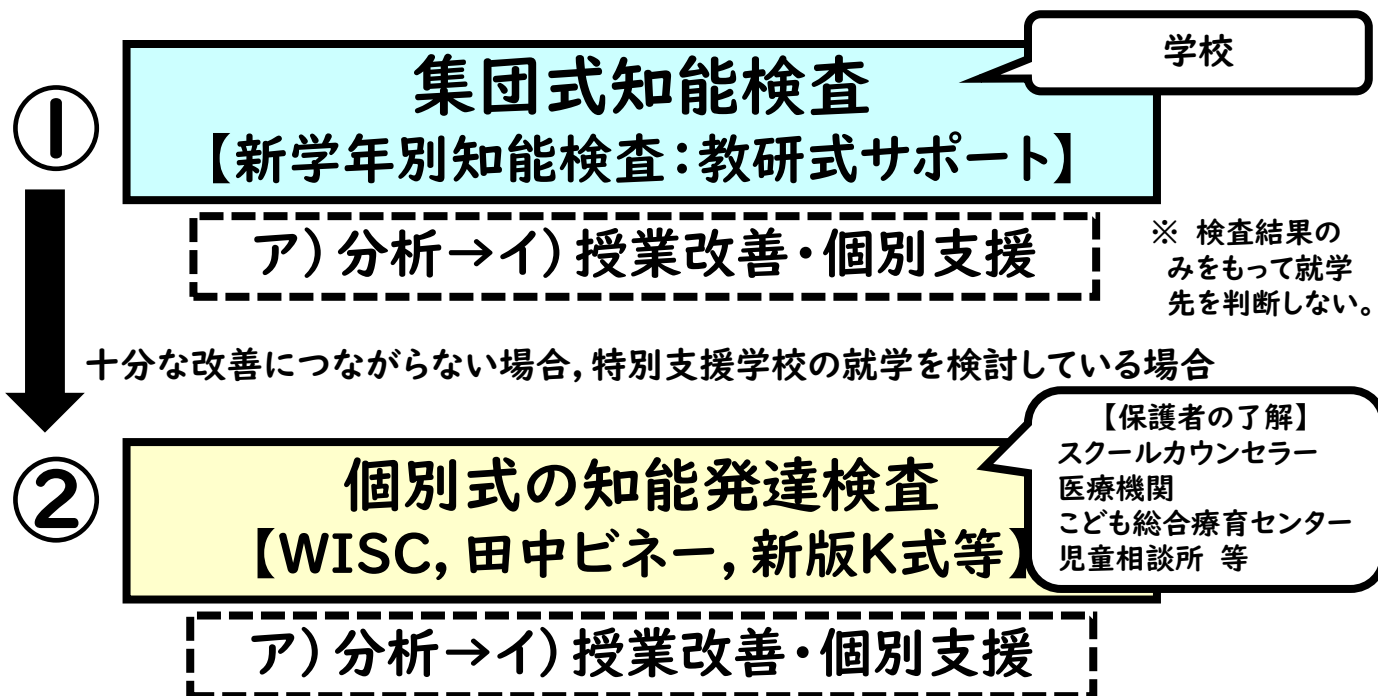


知能検査等の活用



- ① まず、各学校等で行っている集団式知能検査（新学年別知能検査：教研式サポート）を分析し、授業改善や個別支援に取り組みましょう。

新学年別知能検査（教研式サポート）の知能偏差値（ISS）は学びの場を検討する資料の一つになりますので、校内委員会や就学教育相談会等に提出する用紙に記入します。ただし、その数値のみをもって学びの場の判断はできませんので留意が必要です。

- ② 集団式知能検査を踏まえた授業改善や個別支援で、十分な成果につながらなかった場合や、特別支援学校の就学を検討している場合は、個別式の知能発達検査（WISCや田中ビネー、新版K式等）の実施について検討しましょう。

地域の、個別式の知能発達検査が実施できる専門家等（スクールカウンセラーや病院などの関係機関）に係る情報を、市町村教育委員会や特別支援学校の特別支援教育コーディネーターに確認しておくことが大切です。

実施に際しては、保護者に、「本人の学び方を把握し、本人に合った支援を検討・実施したいので、個別式の知能発達検査の協力をお願いしたい」等の説明や依頼をし、必ず了解を得る必要があります。

検査の実施後は、授業改善や個別支援に生かすとともに、校内委員会や就学教育相談会等に提出する用紙に記入します。ただし、その数値のみをもって学びの場の判断はできませんので留意が必要です。